

図書館情報学橋会臨時総会開催のお知らせ

図書館情報学橋会

森 茜

平成 27 年 10 月 10 日付けで理事会から本職に対して「図書館情報学橋会の茗溪会退会についての提案」が提出されました。図書館情報学橋会会則第 19 条に基づき、以下のとおり臨時総会を開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席くださるようお願いいたします。

1. 開催日時：平成 27 年 12 月 6 日（日）公開講演会終了後（午後 3 時 45 分～）
2. 開催場所：筑波大学文京校舎 121 番講義室
3. 議 題：図書館情報学橋会の茗溪会支部加盟からの退会について
 - (1) 図書館情報学橋会の茗溪会支部加盟からの退会について
 - (2) 個人会員とし茗溪会会員に残る方法について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) その他

※ 臨時総会出欠の有無を同封のはがき又は図書館情報学橋会ホームページ <https://www.tachibana-kai.com/>でご回答ください。なお、欠席の場合は議題に対するご意見を記載するようお願いいたします。

【理事会からの提案理由等】

一般社団法人茗溪会(以下「茗溪会」という)の支部である図書館情報学橋会(以下「橋会」という)は、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類及び図書館情報メディア研究科(以下「筑波大学図書館情報系」という)の卒業生の同窓会であります。もともとは、平成 11 (1999) 年に旧図書館職員養成所と旧図書館短期大学の同窓会である橋会と旧図書館情報大学同窓会を統合してできた図書館情報大学同窓会橋会が、旧図書館情報大学が筑波大学と統合したことを機会に、多種にわたる学校の卒業生が筑波大学同窓会の名のもとに連帯感と帰属意識をもって社会活動ができることを願って合併し、平成 16 年 5 月に筑波大学の同窓会である茗溪会の一支部となったものです。

以来、図書館職員養成所、図書館短期大学、図書館情報大学卒業生も筑波大学図書館情報系の卒業生も同じ学問を志した仲間として交友を深め、卒業後の経験や知識を共有し、共に高め合えるような同窓会になりたいと、力を尽くしてきました。現在では、約 1500 名の会員中、筑波大学卒業生が約 200 人(13%)にもなりました。100 年近い歴史を持つ同窓会として、筑波大学の卒業生が 13%にもなったということは画期的なことです。若い卒業生たちは、図書館や情報に留まらず、幅広い分野に進出し、活躍しています。

一方、茗溪会は、平成 24 (2012) 年に社団法人から一般社団法人に法人格を移行しましたが、それまでの財政悪化の改善は進まず、ついに、平成 26 年度の役員改選で執行部の大幅入れ替えとなり、同窓会の要である「茗溪会館」の管理運営権を私企業(株式会社シーズン)に手渡す事態となりました。これらの財政悪化は茗溪会館建て替えに要因があります。長期借入金については、借入時 4 億 8500 万円でしたが、平成 27 年度によりやく残額

1,566万円になりました。しかし、借金時に第一生命保険から受けた保証金14億円については、平成27年度によく2億円を積立てましたが、今後12億円を積み立てていかねばなりません。計画では毎年4000万円ずつ積み立て、平成57年度に一括返済の見込みだそうです(平成27年度茗溪会総会資料・財産目録注記及び正味財産増減計算書(企業の決算書に相当))。

このような財政状況の影響は、私たち会員が納めている茗溪会会費の運用に大きく影響しています。茗溪会の財務分析(一般社団法人への移行認可申請のために行った調査。平成24年度茗溪会総会資料)では、会費収入の約40%が会館維持経費に、残り60%が管理費(30%)、事業活動費(15%)、印刷発行費(15%)に使用されており、会費の約40%が茗溪会館建替え時の借金返済や維持費に充てられ、会員の恩典である公益活動や会報発行にはわずかな経費しか充てられていないことが明らかとなりました。財務分析はこれ以降行われていませんが、長期借入金がなくなっても、その代わりに保証金の積み立てが本格開始されることになれば、この傾向は全く変わらないと考えられます。

私たちは、茗溪会会費3,500円を毎年納めています。そのうち橘会には支部会費としては350円が支給されるだけです。平成26(2014)年度決算における橘会の実年収は約45万円となっています。これに対し、同年度の橘会の支出は、会報等の印刷・送料45万円、大学支援金15万円、その他運営費(HPサーバ・レンタル料など)等をあわせ、合計約70万円です(平成27年度橘会総会資料)。つまり、茗溪会支部会費では会報の発行等だけでも赤字続きで、毎年約25万円を先輩達が残してくれた橘会の資金から持ちだして運営しています。これでは、今後の同窓会運営に支障をきたします。

しかも、茗溪会館の使用は結婚式が優先され、橘会が総会や公開講演会を開催する際には無料で使用できなくなりました。また、茗溪会支部の殆どが各地域の初等・中等教育の教員組織で成り立っており、教員以外の幅広い分野の卒業生の交流に寄与していないのが現状です。つまり、私たちの会費が、殆ど年4回の「茗溪会会報」を受け取るだけの恩典となってしまいました。

他方、筑波大学本部執行部は、かねてより、このような茗溪会の同窓会機能の劣化を憂慮し、再三再四運営改善を要請していましたが、ついに、平成25年度に「筑波大学同窓会サイト」としてWEBサイト(<https://alumni.tsukuba.ac.jp/>)を立ち上げ、同窓生組織の再編に着手しました。このサイトでは、筑波大学の卒業生が学類や研究科単位でページを作り、交流を行えるようになっています。また、卒業生に対し、筑波大学校友会生涯メールアドレス(Google社 ○○@alumni.Tsukuba.com)やSNS機能の無償提供も開始しました。これらのサービスは、大学本部の総務部総務課渉外連携課が支援体制を組んで運用されています。

これを踏まえ、本年7月開催の橘会総会に臨席された中山伸一筑波大学副学長兼図書館長(前図書館メディア研究科長)や杉本重雄図書館情報メディア研究科長からも、橘会が大学との協力関係を深めることを希望する旨の発言がなされたところです。

このような状況の下、橘会理事会としては、現在、会員が負担している3,500円の”会費“を有効使用するために、やむなく、茗溪会の支部としての加盟を退会し、筑波大学同窓会サイトを中心とした特色ある同窓会活動を展開したいと判断するに至りました。